



DAMANHUR

ダマヌール日本ニューズレター

ぽぽろ



《 第59 秋号 》

発行 ダマヌール日本
発行日 2026年10月15日
<https://www.damanhur.jp>

POPOLO

秋号

ダマヌールのプラノセラピー



一時的な炎の癒し。
記憶に彩られ、求める心のために…
時の道をたどる永遠の息吹…

はじめに…呼吸と魂

あなたは、どんな呼吸をしていますか？

毎晩、深呼吸を行っていますか？

日常、あまり意識をしない呼吸ですが、一分間の呼吸数を12～18回とすると、一日24時間で約2万回もの呼吸を行っていることになります。

そして、呼吸は吸って(広がる)、吐いて(縮まる)と繰り返す動きを行い、宇宙とあなたの交流をうながします。

また、古代より世界の宗教の経典や言語におい

て「呼吸と魂」は深い関係を持つことが知られています。旧約聖書のヘブライ語で「ネフェシュ(nephesh)」の語源は「呼吸」や「喉」で、一般には「魂」や「命」と訳されます。新約聖書のギリシャ語で「プシュケー(psykhe)」の語源は「呼吸」「息吹」で、「魂」と訳されます。ラテン語「アニマ(anima)」は「魂」や「生命」だけでなく、「風」や「息」も意味します。

日本の大和言葉(注1)の「息吹」は呼吸です。「魂」は「たま(霊・玉)」と「しい(ひい)」から成り、

「たま」は生命力や神秘的な力(霊)と「しい(ひい)」はそれを動かすもの、または状態を表す接尾語になります。

呼吸は人間の命や活力の源として、魂や精神と同一視されています。そして、健康面からも、精神的面からも様々な呼吸法が生み出されています。

(注1) 中国から漢字や漢語が入る前から日本にあった言葉です



ストレスと治癒

ダマヌールでは、人間は肉体・マインド・魂の三つが総合的に関わっている存在だと捉えます。健康は単に「病気にかかっているか」が問題ではありません。悩みを相談できる友がいるか、共に成長しているかなど、良好な人間関係の中で自分を表現できているか、なども健康を考える上で重要なポイントです。

一例ですが、仕事仲間に自分の分だと思っていたコーヒーを飲まれたとしたら…あの人は嫌い、私の分を飲んだ、理解できない、いつも意地悪する…と、その状態が誤解かどうか確認せずに腹を立ててしまう。すると、何かあるとコーヒーを思い出して不愉快になります。その不愉快で嫌な感じと、また起きるかも…という恐れは臓器の細胞に留まります。病気になるプロセスとして、時間と共にそれぞれの細胞に溜め込んできたネガティブな感情が、病気の情報として出来上がってしまうのです。それが胃だった場合には胃炎や胃潰瘍を起こすでしょう。

治るプロセスとしては、コーヒーを飲んでしまった人との関係を見直します。自分の中に葛藤を作る要素があったか、今度は私のコーヒーだと言えるか、本当に意地悪だったのか…などを見方や行動を変えていくことが大切です。すると新しい体験に出逢います。ポジティブな考え方に変える、変わりたい治りたいと望み自分の思いを方向づける。体には何を言いたいのかコミュニケーションを取る。これらは簡単ではないかもしれません。

しかし、「何がなんでも治す」という楽観性と熱意があれば、あなたの中のボタンがONになるでしょう。

自己治癒力のボタンは自分で見つけるしかないので。

また、憂鬱になり悲観的になったら、鏡の前で笑ってみましょう。笑うことは正しい方向に導く助けになります。そして、人生の明確な目標を持って、あなたがなりたい自分として存在しているか考えてみましょう。すると肉体の不調が変化する場合がありますし、プラノセラピーはあなたが変わることをサポートします。

実際には、様々な治療やヒーリングをしても亡くなる人はいます。それは魂の計画であり、私たちは生まれたときに死ぬ時間は決まっているのに、それを知らずに誕生するのです。ダマヌールでは病気は自分の考え方や生き方を変える一つの体験であり、人生に精神的付加価値をもたらすチャンスと捉えています。

プラノセラピー

プラノセラピーというヒーリングはご存じでしょうか？ ダマヌールで用いられている数々の療法の中でも基礎となる自然医学の筆頭であり、肉体、マインド、魂の存在全体に同時に働きかけることが可能な唯一のヒーリングです。それが、ヒーリングの女王と言われている理由です。

ダマヌールの研究によると、宇宙には5,000種類以上のエネルギーがあることがわかっています。その中でもプラノセラピーで扱うプラナーナは、宇宙の起源的な命のエネルギーで、繊細で知性(賢さ)を持っています。

あなたはオーラというエネルギーの体を持った存在です。肉体の周りに卵形のようなオーラがあり、あなたの不調和はまずオーラに現れます。





プラノセラピーの施術を受けると、プラナーはオーラを始め、肉体、マインド、魂に流れ、特に不調和がある部分に集中的に働きかけて調和を回復させ、エネルギーで満たします。

プラナーのエネルギーは情報であり、プラノセラピー施術中に流れ続けたプラナーは、上記以外に、細胞に正しい情報を残し、人生の方向性を拡大し、あなたの精神的成長や進化を後押しします。自己治癒力を高め、他のどんな治療とも併用することができます。しばしば、本人が気づいていない機能障害にも有効です。

ダマヌールの魂の構造の研究から、魂は複数のパーソナリティたちから成り立っていることが明らかになっていて、パーソナリティ同士も葛藤やストレスで不調和になることがあります。そのようなときは、プラノセラピーの継続によりパーソナリティの調和的な関係を導くことが可能になります。さらにプラノセラピーはシンクロニシティを引き寄せて変化を加速させ、自己の潜在能力を引き出して未来へと働きかける施術です。定期的にプラノセラピーを行い、エネルギーに満ちていれば、多少のことにはへこたれず、本来のあなた自身が輝いて夢や望みの実現へと向かうことでしょう。

放出されたエネルギー対策 と深呼吸のお勧め

プラノセラピーではヒーラーとクライアントが行う深呼吸が大切です。ヒーラーがプラナーを深呼吸でクライアントに中継し、クライアントは自分のリズムで深呼吸を行って吸収作用を助けます。

注意すべきは、ヒーラーがポジティブなエネルギーをクライアントに中継した結果、ネガティブなエネルギーが排出されることです。これはどんなエネ

ルギーヒーリングでも同じです。排出されたネガティブなエネルギーはヒーリングをした場所やヒーラー自身に蓄積しがちです。現代科学では微細なエネルギーを把握できないことから、その影響や対応があまり考慮されていません。

ダマヌールでは、場所の汚染やヒーラーの健康を考慮し、プラノセラピーを行う場所にはネガティブなエネルギーを吸収するセルフ「スカリカトーレ」を用い、ヒーラーには定期的な放出を義務付けているため、いつでも安心してプラノセラピーを受けることができます。

あなたにお勧めするのは毎晩寝る前の11分間の深呼吸です。今日一日を締めくくる意識的な深呼吸で、一日の習慣化した生活を中断させて、新しい明日のためにリセットしましょう。

初めて体験する人へ

椅子に座ってリラックスしましょう。ヒーラーはあなたの後ろに立って頭上に手をかざしプラナーを中継します。あなたの頭には触りませんし、中継する時間は約15分前後です。

あなたのペースで深呼吸をして、深呼吸に集中してください。また、様々な思いや考えが浮かんできたら、それらに執着しないで流してください。

施術中は白い音と赤い光を使います。白い音は人間が聞くことのできる幅広い周波数の音を、同じ強さで均等に混ぜ合わせた雑音です。周りの不快な音を包み込んで目立たなくする働きがあり、集中力を高め、リラックスし、安眠の向上に作用します。

赤い光は可視光線の中で最も波長が長い光です。プラナーが身体の深いところまで届くようにサポートします。

初めてプラノセラピーを受ける人は、一週間に一回、10回続けることをお勧めします。その後は、体調に合わせてあなたのペースで継続ができます。定期的にプラノセラピーを受けることは、定期的に命のエネルギーで満たされた状態をつくります。

あなたの良さや才能が現れるように、あなたの精神的進化が進むように、この宇宙で唯一の存在であるあなたが幸せであるように、ダマヌールのプラノセラピーをお勧めします。

プラノセラピーに関するお問合せ
一般社団法人オロヴェリ
mail@orovelj.org

オロヴェリヒーリングルームでは、プラノセラピー以外に、ビューティーのプラノセラピー、セルフ学の最先端のテクニックであるセルフティックヒーリングを受けることができます。前号のニューズレター「POPOLO」58号でもヒーリングを紹介しています。

プラノセラピー体験談

「プラーナ」が始まると、滝の水が上から下に落ちるような水の音が聞こえてきます。それと同時に目を閉じてリラックスします。この一ヶ月に起こった嫌なことや「あのとき、こうすれば良かった」などを振り返ります。

ストレスが多かった月は、目を閉じた途端、あたりが一面、真っ黒。それこそ「漆黒の闇」。水の音に耳を傾けていると、この闇が動き出します。私の場合、この黒い闇がたくさんの塊となります。次から次へと上へ上へと登っていきます。自分のストレスが天に向かって放出されている感じです。

しばらくすると、今度は紫がかったピンクの塊が出始めます。これも上へ上へと登って行きます。この情景になったときに、私は浄化されたと実感します。自分が瞑想した時に、深いところに入り込み、心が安定したときによく見る色だからです。この状態になった時に、だいたいプラーナは終わります。頭はボヤッとした状態ですが、身体はすっきりした状態です。

「プラーナ」は、一ヶ月の浄化、そしてゼロ磁場にしてくれるツール、そして、次の一ヶ月を頑張らせてくれるツールだと思っています。(J.N.)



私が初めてプラノセラピーの効果を目にしたのは、数十年前で、顔が青白く気分が悪そうな人がプラノセラピーを受けたときです。その人が部屋から出てくると、頬はピンク色に染まって元気になっていたのとても驚きました。それから、今まで数十年に渡ってプラノセラピーを継続中です。

鼻の手術のときは、プラーナの中で漂っているような感覚がありました。今回の入院先は救急病院で、ベットを早く空けるために、大手術にもかかわらず翌日から歩く練習が予定されていました。

手術翌日、体調不良で歩く練習は中止。それでも看護婦さんたちはベットの上に私を座らせると、どこかに行ってしまう、私は急に不安になりました。

そして、座ったまま横に倒れて意識を失ったようです…私は知らない女性と一緒にお花畑で花を摘んでいました…そして、気がつくと治療室で5~6人のお医者さんに囲まれていました。後日、倒れた時間はプラノセラピーを遠隔で受けていた時間内だと気づきました。プラーナのお陰で助けられて感謝しています。(T.K)

私がプラノセラピーの素晴らしさを実感したのは、転職と引っ越しを機に2週に一度定期的に受けていたプラノセラピーへ通えなくなり、ストレス性の目眩^{めまい}と胃炎が再発したときでした。新卒で働き始めた年のある日の朝、天井と床がグルグルと回る激しい目眩に襲われ、布団から起き上がれずに倒れ込んでしまいました。病院での診断はメニエール病でした。

その後、プラノセラピーを受け始めてからは目眩が治まっていたため、当時は一過性の症状だったのだろうと深く考えていませんでしたが、転職のストレスで目眩が再発したとき、プラノセラピーを受けていた時期は目眩予防になっていたのだと気がつきました。その後、プラノセラピー通いを再開して何度か同じ体験をくり返しました。

プラノセラピーは、「一度で腫瘍が消えた」「車椅子の人が歩き出した」といった派手なヒーリングではありませんが、じんわりと心と身体と魂に働きかけて効果が現れるため、受け始めの時期は「これがプラノセラピーの効果だ!」と確信を持つのは難しく思いましたが、プラノセラピーを中断していた時期に偉大なエネルギー効果を身をもって実感することができました。(メダカ)

私はフルタイムで勤務していた頃、毎週プラーナを受けていました。毎日全力で仕事をしていたので、心身ともに疲労困憊していることや、さまざまなフリークエンスを持った多様な人々が集まる場所だったため、そうした多様なエネルギーの影響を受けることによるしんどさもあったと思います。

プラーナを受けると、不要なエネルギーがすべて洗い流されたようなスッキリした感じと、心身ともにフル充電されたような充実感があり、「これでまた1週間働ける」という安心感がありました。

毎週受けていた頃は気づかなかったのですが、生活の状況が大きく変わってプラーナを定期的に受けられなくなった時に、人生がガタツキ始めました。トラブルやアクシデントが頻繁に起こるようになり、改善しようとあれこれやってみてもうまく歯車が噛み合わないような、船が羅針盤を失っているような心もとなさがありました。

その後またプラーナを再開し、今でもアクシデントやトラブルはありますが、「最終的にはうまくいくだろう」「基本的に人生の方向性は間違っていない」という安心感があります。今後も継続して受けたいと思います。(アバローネ)

橋の形の動物たちとのコンタクト

イタリアのダマヌールでは、2016年から、新しいプロジェクト「橋の形の動物たち」とのコンタクトが始まりました。橋の形とは、物質と精神を繋ぎ、地球上で精神的進化を目指す魂を持っている存在を指します。日本では、2024年から石川県能登で野生のイルカとコンタクトを開始。沖縄でクジラやカメとも行いました。

今回はゾウとのコンタクトについて報告します。



ゾウとのコンタクト

私がダマヌールの「橋の形の動物とのコンタクト」を2024年から始めて3年目となりました。始めた当初は海洋動物のクジラ、イルカ、ウミガメが主体でしたが、2025年4月にはインドネシアのスマトラ島、8月にはケニアでゾウのコンタクトを体験することができました。

前日の晩からコンタクトの準備に入りますが、当日、動物たちと繋がる際には古代からの言語を使用してコミュニケーションをとります。ジェスチャーのやり方はそれぞれの動物によって異なります。

2025年8月のサファリのメッカであるケニアのゾウとのコンタクトでは、連日、大群のゾウに遭遇して、ダマヌールのミッションを遂行することができました。

世界にはアフリカゾウ、アジアゾウ、マルミミゾウの3種の現生最大の陸生哺乳類が生息しています。その中でもアフリカゾウは一番体が大きく、6トンから8トン、耳は三角、性格は比較的荒く、人間に慣れにくいと言われています。過去にはゾウに一撃され命を落とした人も身近にいました。また、私自身ボツワナでのサファリ中にサファリカーに向かってくる母親ゾウの強烈な襲撃を体験していたので、ゾウはとても怖いというイメージがりましたが、それを根底から覆す何百頭というゾウ



のコンタクトでした。ゾウは記憶力がとても良いので、一度人間から嫌な怖い体験を受けると、人間不信となり人間が近づくと非常に凶暴になることがあります。

人間側にも大きな原因があります。例えば生態調査のために人間から空気銃で眠らされ、調査用のラジオ探知機を装着させられたゾウなどです。特に子育てをしているメスゾウは、子ゾウを連れてある際には非常に敏感になるのです。

ケニアの8月は乾季、タンザニアからのヌーの大移動、夏休みと重なり一年でもっとも観光客の多い季節です。1週間の滞在でしたが、ゾウに遭遇しない日はありませんでした。サファリのルールは常にサファリカーから、大きな音を立てないように動物に近づくことです。決してサファリカーから降りてはいけません。



今回のゾウとのコンタクトはサファリカーから行いました。ゾウの大群を見つけたら、まずはゾウと協調を呼びかける古代からの特殊な言葉で対話が始まります。さらゾウに近づいたら、ジェスチャーでソウに語りかけます。視力の弱いゾウですが、目と目が合ったかのように立ち止まってくれることもありました。のっそりのっそりとサファリカーの近くを通り過ぎるゾウの群れは、人間を襲うなんて全く想像もできないほどです。非常に穏やかな気持ちでゾウと対話をするという素晴らしい体験をすることができました。心の底からの協調の歓喜、感動のゾウとのコンタクトが連日続きました。私にとってこれほどの至福の時空はありませんでした。

このダマヌールの精神的プロジェクトは今後も続きます。次はキリン、ゴリラとの対話も予定しています。(ノブヨ)

セミナーの感想



「アストラトラベル」を受講して

私は、2025年8月に家族に勧められて、ダマヌールの体験会に参加しました。翌月の9月には、アストラトラベルのセミナーが開催予定でしたが、初めてダマヌールを知ったばかりで、その時はセミナーに参加しませんでした。

スピリチュアル物理学とアストラトラベルは必須だから…と、教えていただき、次の開催は一年後かも?…と言うことでしたので、1年間待って、ようやく受講できたことに嬉しくまた感謝しています。

アストラトラベルを日本的にいうと漫才でもお馴染みの「幽体離脱っ〜」ですが、最近ではデジ

タルブックなどもあり二冊ほど読んでいました。その本には、仙道の小周天という技法に近い方法が書かれていました。また、他のイメージ法についても紹介されていたので、ダマヌールの方々は、どんな方法を実施しているのかと、とても興味がありました。また、技法だけでなく、そのための知識として、何を教えていただけるのかと楽しみにしていました。基礎知識として、アストラ界について多少は知っていましたが、アストラトラベルの準備を知って…(驚き!!)。実技では参加者みんなで誘導瞑想をしましたが…(難しい!)今回参加できて、フェニーチェ先生、スタッフの方々、ありがとうございました。(感謝)(M.N)

ファルコの言葉



ファルコ・タラッサコ
(オベルト・アイラウディ)
1950-2013

哲学者、ヒーラー、芸術家であり、先見の明のある精神的ガイドとしてビジョンをもたらすダマヌールの創始者。

「恐怖と勇気」

「ああ今日も生きている」と目が覚める。自分は昨日と大きく変わっていないつもりでいる。けれど、ふと疑ってみる。私がとらえている私自身は、気づかぬうちに退化しているのではないかと。日々、小さな恐怖が忍び込んでくる。体が痛む。目が見えにくくなった。すぐに思い出せない。それどころか、記憶にすらない。私はこの先どうなるのだろう。

体のことだけではない。大人になって、「勇気を出す」ことは周りとの軋轢を生むことと同義になってしまった。発言も行動も、ためらうようになった。一つひとつは取るに足らない小さな恐怖だ。そんなとき、ファルコさんの「勇気」についての手紙を読み返す。

大人になった私にとって、勇気とは? ずけずけとものを言うことでもなければ、向こう見ずな決断をしたりすることではない。『過ちを認める勇気。自分の限界を知り、それを乗り越えようとする勇気。重要な決断を下す勇気。人に奉仕し続けるための勇気。』よりよくするために考えを伝えるとか、耳の痛い言葉にも耳を傾けるとか。年をとると、そうした勇気が一番持てないような気がする。

恐怖があるから、乗り越える勇気生まれる。体の痛みも、衰えへの不安も、言い出せなかった言葉への後ろめたさも、私に勇気を差し出す機会だった。恐怖に打ち勝つことができるのは、ただ一つ、目をそらさずに向き合うという「勇気」だけ。真剣に向き合うという、勇気を持とう。自分の老いにも、目の前の人にも。どんな些細なことであっても。そうやってまだまだ成長していきたいと還暦の年に思う。(ミカヨ)

「ファルコさんの言葉と私」

ファルコさんの言葉や記事を読むと、不思議な感覚に包まれることがあります。時には癒され、時には奮い立ち、その時その時で必要な言葉が降りてくる。まるで彼が私のために書いてくれたのではないかと思うほどに。

言葉はフリークエンスであり、人間が使うマジックな道具です。ファルコさんの言葉は、私の中にある記憶を呼び起こします。共に過ごしたことも、同じ経験をしたこともないのに、なぜか自分もそこにいたことを思い出すように、感情と記憶が結びつくのです。人々が互いに愛し、信頼し合い、地球や他の生命体と調和して生きていた時の記憶。ファルコさんの言葉は、私たちが忘れてしまった本来の姿を、まるでもう一度体験するかのように思い出させてくれます。

ファルコさんは、共通の目的を持つ仲間と関わるコミュニティが、精神的な進化には必要だと説きました。一緒に過ごし、食事をし、泣き、笑い、喜び合う。メディテーションの学校に入ってから

8年目、コミュニティーで暮らして1年目。そうした体験を重ねる中で、同じ言葉から、以前とはまったく違う意味を受け取るようになりました。その一方で、同じ言葉の中には、まだまだ新しい発見があるような予感もしています。これから、その深みに出会えることを楽しみに日々を大切に生きていきたいです。最後に、お気に入りのファルコさんの言葉を。『自分自身の夢のために努力し、私の夢のために

互いに愛し合いなさい。そして皆と一緒に、私がこれまでに描いた中で最も美しい絵を形作ってください。』

私たち自身が芸術であり、世界への関わり方もまた芸術なのだと思います。同じ志を持つあなたの心に、この言葉が火を灯し、いつか皆で、まだ見たことのない新しい芸術を創造できますように。(アポレミア)

動物名植物名を獲得しました

ダマヌールでは主要な構造の一つに「ゲーム・オブ・ライフ(人生のゲーム)」があります。

組織やグループ、個人が停滞やマンネリに陥らないようにするために、人生を冒険ととらえて、柔軟性のある発想や行動で、ダマヌールに変化と成長の継続をもたらしています。また、動物名や植物名をとることも、ゲーム・オブ・ライフの中の一つです。

最初に動物名をとりますが、チャレンジし自分を変えて生きること、動植物など他の種と共存して支え合って生きることなど、ユーモアや遊び心を持って取り組んでいます。

スピリチュアルリーダーだったファルコは、「名前とは、力であり、絆であり、敬意であり、その名前が表す種への関心です。ライフサイクルがそれを許すとき、一つの共通の魂が人間と動物の間で分かち合われます。…略…一つの「名前」を持つ名誉を、十分に、情熱を持って、余すところなく生きてください。」と記しています。

2026年の5月から、以下の皆さんが加わりました。ご紹介しましょう。



植物名 リンデン

リンデンには、ヨーロッパやギリシャ神話などに於いて聖なる木としての伝承があります。特にドイツやケルト民族の間では、穏やかで甘い香りが冷静な判断

をもたらすとして、リンデンの木の下で「真実が明らかになる」と信じられていました。そこは共同体の話し合いや祭り、結婚式を行う喜びの共有の場所であり、「愛と平和、調和、自由」を象徴する場所でした。また、木材・葉・花は、「千の用途を持つ木」として、ハーブティや織物・楽器など幅広く加工されています。私がダマヌールでの共同生活を決意するにあたりこの名前を選択したのは、ここ杉谷の大地、仲間や共生しているさまざまな生き物との繋がりや調和を願うからです。(フォルビチーナ・リンデン)



動物名 オオルリ

オオルリは、私の生まれ育った栃木県の県鳥で、瑠璃色の美しい鳥です。川のせせらぎや鳥の声が聞こえる溪谷の町で育った私にとって、オオルリは幼い頃から身近にあった存在でした。春に南から渡ってきて、豊かな森の中で番いで子育てをする姿にも、深い魅力を感じています。

この名前には、オオルリが暮らせる豊かな自然環境を守り、そのような環境を広げていきたいという願いを込めました。そして、美しい声や姿で人々に幸せや希望を届けること。美しい儀式や文化を生み出し、次の世代へ大切なものをつないでいくこと。オオルリという名前とともに、そんな役割を果たしていきたいと思っています。(オオルリ)



動物名 アバローネ

オロヴェリイにはたくさんの動物(名を名乗る人たちが)生きていますが、貝類はまだいませんでした。そこで、グループに多様性をもたらすべく、貝類の中からアワビを希望することにしました。

アワビは古くから日本で珍重されてきました(天然真珠の母貝、身は栄養豊富で漢方薬に、朝廷への献上品、熨斗鮑→のし紙を贈る)が、現在は絶滅危惧種となっています。

この名前を名乗ることで、アワビという種に意識が向き、絶滅の危機から脱するように、また、アワビの貝殻が持つ強靱な防御力と、真珠のように人生経験の貴重なエッセンスを抽出し、分かち合う力を、ダマヌールの人々にもたらせたらよいなと思っています。(アバローネ)

オロヴェリイの動物、植物たち(順不同)

フェニックス・シダ、モズ、トロール、ヒクイドリ、カモシカ、コーギー、エナガ、クオン・シソ、オンドリ、ジャコウネコ、マグロ、ニジマス、クダクラゲ、メダカ、トキ、カメ、ヤマアラシ、ハサミムシ、ヤマネ、コッカスパニエル

セミナー・イベントスケジュール 2026年秋冬

フェニーチェ 2日間セミナー オロヴェリィセミナールームにて

「古代エジプト・アトランティス」

11月7日(土)8日(日)

開催時間：7日 11:00～18:00

8日 10:00～18:00

会場：オロヴェリィセミナールーム

講師：フェニーチェ・フェルチェ

通訳：ハクリュウ

参加費：40,000円

ダマヌールは、古代エジプトの時代から秘教的な知識の道として古代の知識を受け継ぎ、現代にまで伝えてきました。そして、長年にわたる研究とダマヌール独自の調査から、アトランティス大陸が実際に存在し、高度な文明が栄えていたことやアトランティスに関する驚くべき事実が明らかになっています。「現代に甦ったアトランティス」とも呼ばれるダマヌール。その創設者の一人であるフェニーチェが語ります。

フェニーチェのグループヒーリング

セミナー終了後。要予約。料金別途(¥6,000)

グループで受けるプラノセラピーです。
個人で受ける以上にパワフル！

要予約

ダマヌールを知る会 in Orovelj

プラノセラピー体験会も同時開催！

オロヴェリィは、ダマヌール公認のコミュニティーです。
この会では、螺旋の体験、セルフフィクペインティングや
セルフフィカのご紹介、また敷地内もご案内します。

オロヴェリィでダマヌールを感じてください。

ダマヌールのヒーリング“プラノセラピー”も是非どうぞ！

毎月行っています！

日程が決まり次第、ご案内します。

場所：いずれも 10:00～12:00

参加費：2,000円（ヒーリングは別途料金）

要予約

ダマヌールの儀式 in Orovelj

2027 2027 2027 2026
春分：3月21日(日) 夏至：6月20日(日) 秋分：9月26日(日) 冬至：12月20日(日)

ダマヌールでは、毎年、春分・夏至・秋分・冬至といった季節の節目に、大きな儀式を行っています。
大自然のエネルギーが変化する時に行う儀式は、あなたの魂を進化させます。
日本でも、オロヴェリィでイタリアのダマヌールと同様の儀式を行います。

プレ メディテーションの学校 まもなく！

ダマヌールの「メディテーションの学校」は、随時開講ではありません。

その扉が開くタイミングは、ごく限られています。

まもなく、その時がやってきます。関心のある方は、お問い合わせください。

問 セミナー・イベント、その他 お問い合わせ・お申込みは

メールアドレス： mail@damanhur.jp

または、右QRコードのお問合せフォームをご利用ください。



ホーム
ページ



damanhur.jp

オロヴェリィ



orovelj.org

フェイス
ブック



YouTube



インスタ
グラム

